

## BT 開発プロジェクトチーム第 2 回会合

三菱商事株式会社取締役副社長  
米国三菱商事会社社長  
相原 宏徳

## 1、はじめに

BT 分野で世界をリードする米国で、本分野の研究者、起業家、投資家と日頃接する機会の多い人間が、『米国から日本の BT を見ると』という視点で、以下意見を述べさせていただきます。

## 2、米国のバイオ開発の現状と将来の方向性

## 1、NIH の予算

2003 年 NIH 予算は、270 億ドル（3 兆 2 千億円）。その内訳として上げられている重点研究テーマは、バイオテロリズム研究、癌、糖尿病、少数民族健康向上、パーキンソン病などであり、国民の健康向上の為の病気の予防、早期発見、治療に関係する研究テーマに研究費を出している。

## 2、バイオベンチャーの Business Model の変化

日本では、現在新聞、雑誌で大きな期待を込めて取り上げられているのに比べ、米国証券市場では、2 年前にバイオブーム、ゲノムフィーバーのピークを迎え、今年来年はバイオベンチャーにとってサバイバルの時期になっている。現在、米国バイオベンチャーで資金調達に成功している企業の 90% は、特定の疾患にターゲットを絞った創薬開発や医療機器開発企業であり、疾患の治療、予防、診断をターゲットとしたベンチャーでない限り開発資金は容易に確保出来ない、バイオベンチャーの淘汰の時期に入っている。

## 3、世界の中の日本

BT 分野での日本のポジションは、米国、ヨーロッパについて第 3 位。アジア諸国も、日本ではなく米国を向いている。本分野での日米共同研究開発を強化することが、日本のポジションの向上に繋がるのではないかと。

1、BT 分野で世界をリードする米国と共同で研究開発を進めることにより彼らの State-of-the-art を直接的に把握し、両国で切磋琢磨することは、日本の技術レベルを向上する上で、重要であると思う。

2、一歩進んで、米国のバイオ業界のインフラ、システムをもっと有効利用

することを考えるべきである。

- 3、基礎研究の成果を、実用化まで繋げる為に、ベンチャー企業の育成は大きな課題である。米国のベンチャー企業を日本に誘致するのも日本のバイオベンチャー産業の活性化につながると思われる。

#### 4、日本の重点戦略

- 1、日本人にとって深刻な疾患の予防、治療に重点的に国として予算を配分すべき。
- 2、日本初ではなく、世界初となる基盤技術の研究開発に予算の重点配分をすべきである。
- 3、最終的には、実用化され国民の健康レベルの向上と医療費の削減に繋がる事が、この議論のゴールであり、現場でのニーズをもとに、重点戦略テーマの選定(What)といかに実用化に持っていくか(How)についての議論を深めてもらいたい。